# 第27期・第28期合同理事・監事会議議事録

**日　時**：1994年6月23日13時30分～16時45分
**場　所**：気象庁海洋気象部会議室
**出席者**：浅井，竹内，岩崎，大西，小倉，木田，関口，中井，新田，藤谷，松野，村上，久保田，白木，廣田，高谷（悟），山中，佐藤（以上第27期18名），礒部，斉藤，永田，里村，田中(博)，森，田中(浩)，高谷(美)（以上第28期8名；第27期からの再任者を除く）

**議　事**

1．第27期第5回理事会議事録の確認
一部修正のうえ承認．

2．1994年度総会議事録の報告
総会議長および2名の総会出席者代表に確認を得て確定したものを報告．

3．各委員会からの報告及び審議
庶務…転載許可2件（「気象集誌」および「研究ノート」各1件）
・後援等名義使用許可2件
1）Pacific Ocean Remote-sensing Conference 主催ワークショップ（1995年11月，インドネシア）
2）全日本科学機器展（東京科学機器協会等主催，1994年11月，東京晴海国際見本市会場）
・委託契約2件申請調整中
1）TRMM アルゴリズム開発第2年度（リモートセンシング技術協会，主任研究者は住明正会員）
2）東アジアにおける気候変動の日本への影響に関する調査研究（中部電力，主任研究者は安成哲三会員）
会計…1994年度春季大会収支報告．参加費，予稿集当日販売等収入165万円．会場費，アルバイト賃金，シンポジウム経費等支出232万円．会場費が例年よりも高くて赤字となった．長期的には参加費の値上げ等，学会予算全体からの見通しが必要になろう．
・1994年4，5月の収支報告．
天気…6月号の内容及び7，8月号の予定を報告．
気象集誌…1994年4号の予定を報告．
教育と普及…夏季大学準備はすべて完了した．
パソコン通信…5月の着信件数251件．
各賞…奨励金選考委員会を6月21日に開催した．応募は5件5名（一般研究調査部門4，気象教育部門1）．このうちから一般2件，教育1件の3件を推薦する予定で作業中．この中で，奨励金の受賞者を若い人に限ったほうが良いかどうかについて理事会の意見を求められたのに対し，理事会として議論．結論的には，奨励金制度は研究を職としていないが，恵まれない研究環境のなかで良い調査・研究活動をしている人を顕彰する制度であるから，3名程度の受賞者のなかで，年齢構成上のバランスがとれていれば，「若い」ことはそれほど重要な要素ではないことが確認された．

4．会員の新規加入等について
個人48名，団体1の入会を承認．個人2名，団体1の退会を報告．

5．1994年度山本・正野論文賞候補者の推薦について
5月23日に推薦委員会の会合を開き，候補者1名の推薦を決定したことの報告があり，第27期の全理事による投票にかけることを確認．

6．日産科学賞，朝日賞，井上学術賞の推薦について
標記3賞から気象学会に推薦の依頼が来ていることが各賞担当理事から報告され，これに対する対処方針を理事会として討議．今後はこの種の賞に対して学会の推薦活動を活発にして行く必要性が確認された．当面するこの3賞に対する推薦については，各賞担当理事が窓口となって，学会賞，藤原賞の推薦委員会に相談のうえ，適当な候補者を推薦することにし，将来的な体制についても各賞担当理事を窓口に，同じメンバーで議論してもらい，常任理事会等に報告してもらうこととする．

7．山本・正野論文賞，堀内基金奨励賞，学会奨励金の取り扱い時期について
気象学会の役員交代時期が1か月早まったことに関し，廣田理事から，従来の推薦日程を見直す必要があるとの指摘があり，これについて討議．候補者の推薦までは旧理事会の責任で行われており，受賞者を決定するための常任理事会への報告，全理事による投票も旧理事会の責任で行うべきであることを確認．このためには，指摘のあったように，取り扱いの日程を早める必要があることも認識された．しかしながら，近い将来に，5月の総会で新役員を決

定する現行の役員選任の日程を見直す可能性もあるため，この問題は新理事会で総合的に議論して結論を出すことにする．

8．中国気象学会70周年記念大会への参加について

標記の大会が10月初旬に北京で開催される予定で，中国側から日本気象学会理事長に対して招待があった．理事会として検討した結果，新理事長，前理事長のうち1名（あるいは両名）を学会の代表として派遣することを決定．中国側が滞在費を負担するため，気象学会の国際交流基金から旅費を支出する方向で対処する．

9．千葉大学環境リモートセンシング研究センター設立に関して

標記センターの設立に関して，浅井理事長，松野理事からその後の経過の報告があり，気象学会から提出する千葉大学学長宛の意見書の案が松野理事から示された．理事会として討議した結果，衛星による地球環境の観測に関する新しい展開に対して，センターの設立が有効かつ大規模な研究体制の整備を行うための第一歩となるとの認識を理事会として了承し，意見書を提出することを承認した．理事会での意見をもとに文案に若干の修正を加えたうえ，以後の提出先，形式等の調整については浅井理事長と松野理事に一任．

10．第28期への引き継ぎ事項について

各担当理事から報告．懸案事項の概略は以下のとおり．

庶務…新役員選任制度の問題点の洗い出し，見直し．
- 編集，会計処理体制の強化．事務局体制の長期展望．

会計…入札制度の拡充．受託研究費の会計処理の改善．大会参加費の検討．

気象集誌…集誌の国際的評価の向上のための投稿勧奨，文献データベースへの加入，優秀論文の表彰．

講演企画…大会講演申し込み数の増加に対する方策．

教育と普及…夏季大学を関東支部主催とし，委員会は多様な問題に取り組む件．

総合計画…学会独自の気象技能認定制度の検討．
- 関東支部設立．
- 地球惑星関連学会連絡会の連合組織化に対する方針．

パソコン通信…BBS の印刷機能の活用．
- 学会周辺層との情報交流の強化．

山本・正野賞…推薦がきわめて少ないことへの方策検討．受賞対象の条件緩和．

堀内基金賞…最近の受賞者，受賞対象者の傾向から「堀内基金奨励賞」を「堀内（基金）賞」と名称変更する件．

11．第27期理事長挨拶

今期では行動力に富んだ理事のバックアップもあり，IAMAP，役員選任制度の改正等，やるべきことをやれた．感謝したい．役員選任制度など，本来の改正の趣旨が十分に生かしきれていない課題もあるが今後の検討に待ちたい．最近は大学院生を中心に学会の構成も若い層が増え，職種も多彩になってきた．将来の発展のための潜在力として喜ばしい．ひとつ気がかりなことは女性会員がまだ3％と少ないことだ．10％程度にはなってほしいが，ムリにできるものでもない．不断の努力が必要だろう．